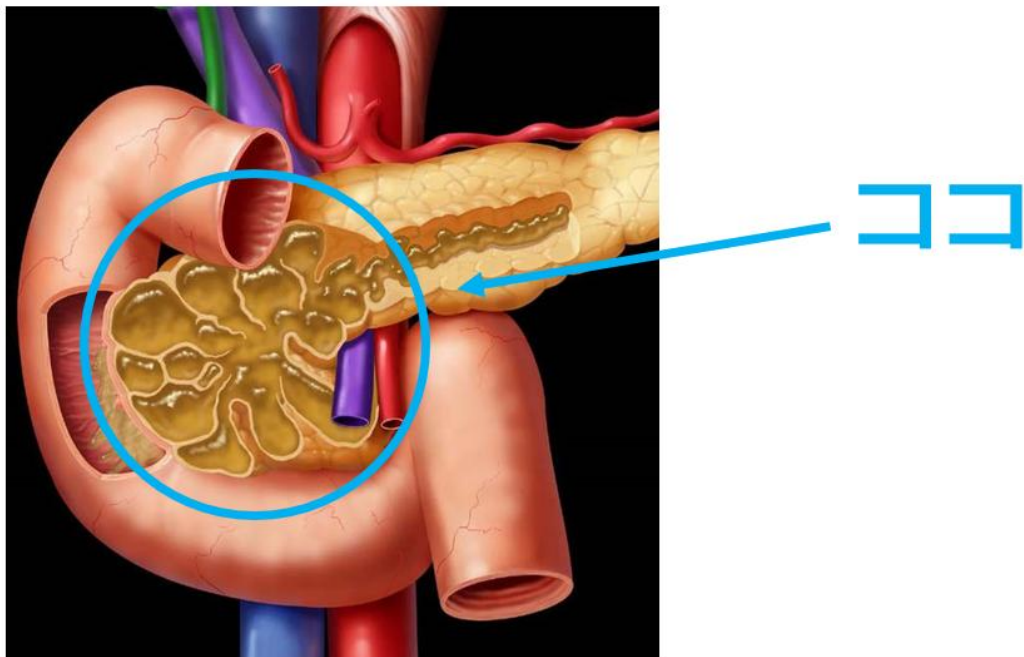


IPMN（膵管内乳頭粘液腫瘍）

Intraductal papillary mucinous neoplasm

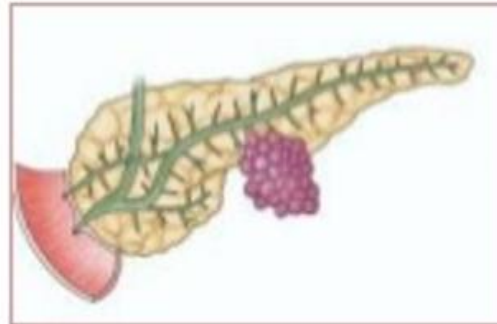
すい臓の中を走る管、すなわち膵液の通り道（膵管）に発生する腫瘍です。腫瘍細胞が粘液を産生するため、その昔、粘液産生膵腫瘍と呼ばれていました。粘液のために膵液の流れが悪くなり、膵管が袋状にひろがります（図）。症状に乏しいため、検診などで

「**膵のう胞**」として偶然に発見されることが多い病気です。

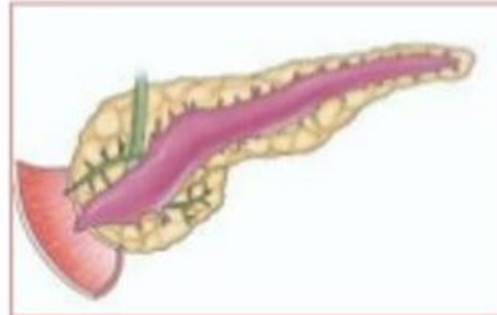


分枝膵管(細い膵管)から発生する分枝型、主膵管(太い膵管)から発生する主膵管型、およびその混合型に分類されます。一般に、主膵管型、混合型には悪性が多く、分枝型には良性が多い傾向にあります。

分枝型



主膵管型

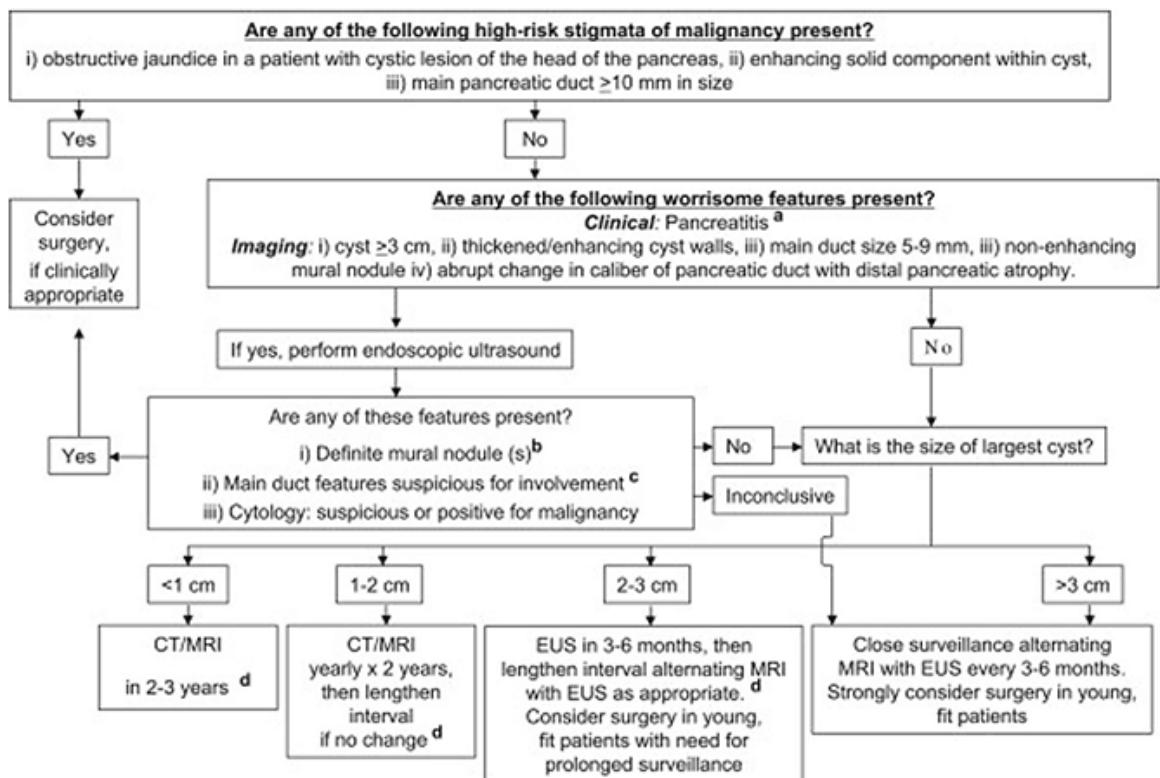


混合型



近年、国際診療ガイドラインによりその診断および治療方針が示されています。

図3: IPMN診療方針選択のアルゴリズム



2012年IPMN/MCN国際診療ガイドラインより

良性から悪性までさまざまな段階のものがあり、**最初は良性**であっても、**後に悪性化することがある**ため、専門医による正確な診断が必須になります。

一般に、すい臓がんは進行すると助からないことが多いのですが、この病気は**がんになる前に診断できる病気**です。

胃がん、大腸がん、肺がんなど、他の臓器の癌を合併することが多いのもこの病気の特徴です。

治療は外科的な手術になりますが、手術しないで経過観察できることが多いため、**専門の内科医による正確な診断**が重要になります。